

# たかおさん

「寄生されたら…」の巻

「希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。」



作・絵：かわまた

## Twitterでふりかえる 高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！  
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。  
2021年10月～12月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

### ツイート

高尾ビジターセンター【公式】  
@takaovc

来週の22日は #冬至 です。  
日没が早い時期なので、16時30分を過ぎると急に暗くなります。  
日没時間を確認し、余裕を持って登山をお楽しみくださいね。

#高尾山 では冬至周辺の期間(20日-24日)に #ダイヤモンド富士 が見られます。懐中電灯をお忘れなく！

#ビジターセンターに聞いてみよう



午後2:02・2021年12月17日・Twitter Web App

冬になると空気が澄むため、富士山が綺麗に見られる日が多くなります。特に冬至前後2日間には富士山頂に太陽が重なる【ダイヤモンド富士】が見られます！神秘的な現象を一目見るために今年も多くの方が訪れていました。

解説員

こじらせた職業病

vol.28

「ゴキブリが苦手な自分が悔しい」この仕事を始めてから、こんな感情を抱くようになりました。好んでこの仕事を選ぶような人間なので、元より自然や生きものが好きなのですが、職場環境がその性質をさらに強固なものにしていったように思います。刺したり噛んだりする生きものに対しては人並みに恐怖心も持ち合わせていますが、大抵の虫は触れるし、へビはむしろ好き、無害と判れば大量の毛虫なども好奇心が勝って手を伸ばしてしまします。

そんな私ですが、未だにどうしてもゴキブリが怖い(山にいるオオゴキブリはギリギリセーフ)。つい先日、自宅のベランダで彼と目が合っただけで心臓がプチンと縮んだのが分かりました。何がそんなにダメだのか。汚いイメーヂ？しかし職場の虫好きの先輩曰く、ゴキブリはこまめに触覚や脚の掃除をするなど、案外綺麗好きなのだとか。ではあの素早さ？確かにあの人間の反射神経を上回る素早さは脅威ですが、素早いというだけであれほどの嫌悪感に繋がるのでしょうか。それなら尚のこと、ゴキブリに対するこの負の感情がただの先入観であり、理不尽なものに思えてならないのです。

高尾山での生きものとの出会いは、いつも私に新たな発見や感動を与えてくれます。そんな自然を、いつでも最大限にありのまま受け止めるためにも、無用な先入観は早いところ払拭したい！などとゴキブリに対して勝手にこじらせた感情を抱くある冬の日のでした。

〈解説員 うめだ〉

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2022年冬号vol.66

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2022年1月13日発行

所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

(公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます <https://www.ces-net.jp/takaovc/>)

高尾山山頂から発信！

# のぶすま

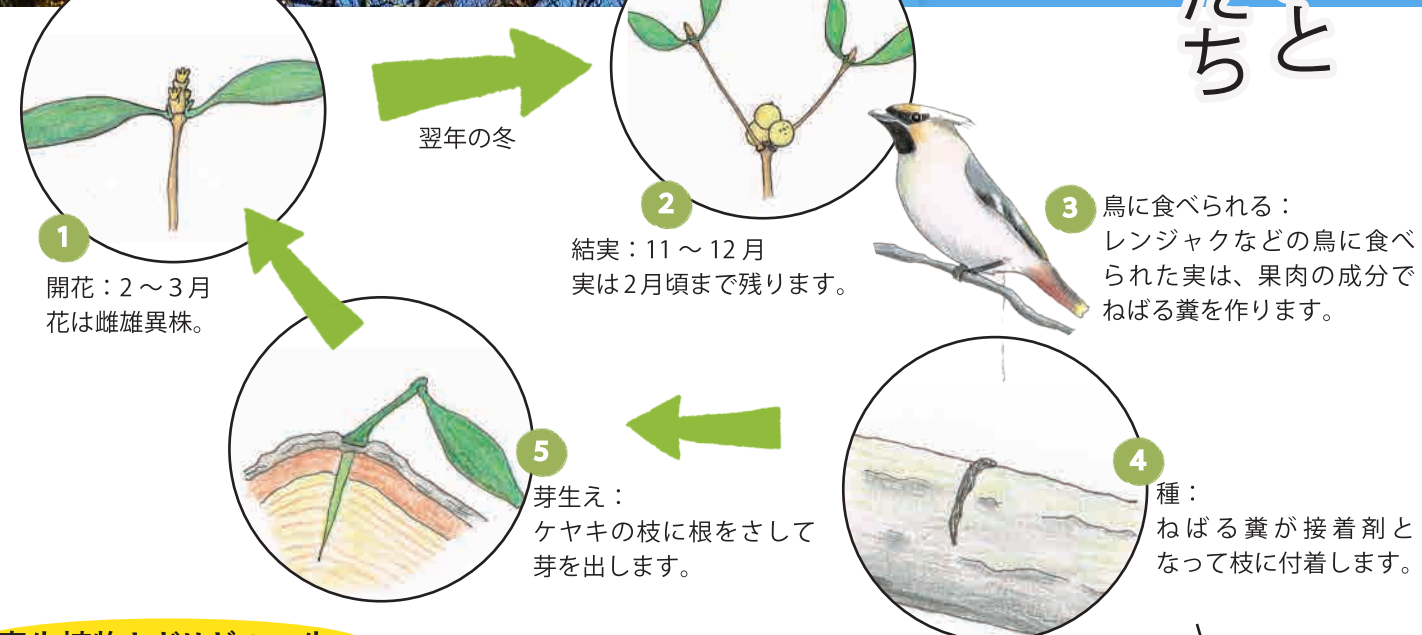
「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.66 季刊  
2022年冬号

生きるために必要なものを、他の植物から横どりして生きる植物がいます。その名は「寄生植物」。私たちの目には見えない場所でくりひろげられる彼らの生き方をご紹介します。



決まった植物がいないと  
生きられない植物たち



### 寄生植物ヤドリギの一生

ヤドリギはケヤキなどの落葉広葉樹の枝に根をさし、エネルギーをつくるのに必要な養分と水分を横どりしています。そのため、土のない木の上で生きることができます。冬に、ケヤキは落葉しますが、常緑樹のヤドリギは緑の葉が残っており見つけやすいので、探してみてください。

### 【観察できる場所】

1号路  
さる園野草園～浄心門  
大きなケヤキの樹上

双眼鏡があると  
観察に便利だよ！





# 寄生植物の暮らし方

寄生植物に寄生される植物を「宿主」と呼びます。  
( ) 内は「宿主」が簡単に見つけられる場所です。

## 半寄生植物

発芽の時に宿主の枝に根を指し、水と養分を横取りします。  
さらに自ら光合成をして栄養分をつくり生長します。  
ヤドリギがこのタイプです。

## 全寄生植物

緑色の葉がなく、自分で栄養分を作ることができません。  
芽を出す時に宿主の根に自分の根を差し、生きるために必要  
な栄養分をすべて横どりします。



宿主：モミ（山頂・5号路）

マツグミの花 7～8月頃路上に落下します。



キヨスミウツボ

宿主：カシ類（3号路などの南側斜面）  
アジサイ（6号路）



ナンバンギセル 宿主：ススキ（山頂、もみじ台）

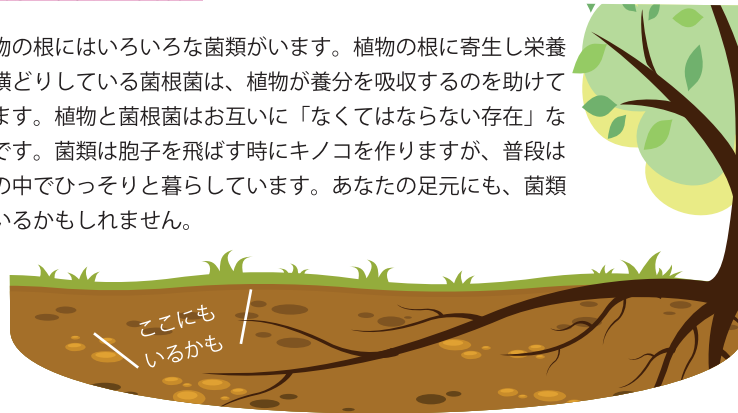


ヤマウツボ

宿主：ブナ科（4号路）

## 植物と菌類の関係

植物の根にはいろいろな菌類がいます。植物の根に寄生し栄養  
を横どりしている菌根菌は、植物が養分を吸収するのを助けて  
います。植物と菌根菌はお互いに「なくてはならない存在」な  
のです。菌類は胞子を飛ばす時にキノコを作りますが、普段は  
土の中でひっそりと暮らしています。あなたの足元にも、菌類  
がいるかもしれません。



## 腐生植物

緑色の葉も根もありません。  
他の植物の根に生息する菌根菌との間に根の代わりとなる菌  
根をつくり、生長に必要なすべての栄養分を横取りします。



菌根菌：ナラタケ キバナショウキラン



菌根菌：ベニタケ マヤラン

寄生植物は独特な暮らしをしているため、絶滅の危機にある種類も多いです。絶滅するおそれのある動植物を取りまとめた資料「レッド  
データブック東京」に掲載されている南多摩地域の寄生植物、腐生植物 19 種のうち、高尾山では 9 種が確認されており、今の高尾山が彼  
らにとって大切な場所であることがわかります。高尾山の豊かな植生が今後も守られれば彼らの宿主を育みます。そうすれば、寄生植物  
の「花」というすばらしい宝物がこれからもずっと私たちに届けられるはずです。ぜひ、自生地の周辺環境へ配慮しながら寄生植物の観察  
を楽しんでください。（解説員：さとう）

# 陣場山の名前のいわれ

“陣場山なの？陣馬山なの？”

陣場山は昔、現在とは異なり草原が広がる山だったそうで、ここから  
名前が付けられたようです。陣場山の名前のいわれと、昔の人々の暮  
らしの関係を紹介します。

陣場山の名前の言われは諸説があります。一つ  
は北条氏を攻めた武田氏が陣を張ったからや、馬  
の陣を張ったからという説があります。その一方、  
茅取場（かやとりば）であったことから「茅（ちが  
や）場」という言葉の音の変化し陣場となったので  
はないかという説があります。

以前、陣場山は山麓の数か所の村のチガヤやス  
スキを刈るための茅取場として使われていました。  
現在、陣場山頂に草原がありますが、茅刈場とし  
て利用されるほどの広さはないように感じてしま  
います。しかし、この50～60年で植生が変化し  
たので、昔はもっと広い草原があったそうです。茅  
はかやぶき屋根の材料として使われていたため、  
大量に必要なだったそうです。また馬や牛の飼料と  
なる秣（まぐさ）としても重宝されていたようです。  
昭和の初めころまでは良質な茅を取るために春に  
山焼きが行われていました。この山焼きは、上恩  
方側と藤野側から同時に点火して行われ、山焼き  
の後はワラビが芽吹き、ワラビ採りも行われてい  
たとのこと。このころの陣場山は美しい草山  
だったようで、山を焼くことで、人々の暮らしに欠  
かせない草原を維持していたことがわかります。

現在では山頂にわずかな草原が残されている程  
度ですが、陣場山に昔から草原があったことは、生  
息している昆虫からもわかります。陣場山にエゾ  
アカヤマアリという赤みのある体色のアリが生息  
しています。草原のような明るい環境を好み、巣を  
作するため、山頂周辺で観察することができます。  
このアリは「八王子市動植物目録」の作成中に陣場  
山から発見され、これが東京都からの初めての記  
録となりました。いつからこの山に生息したかは  
わかりませんが、山焼きを行い草原が維持されて  
いたころは、もっと彼らにとって暮らしやすい場所  
だったのではないのでしょうか。

今年、陣場山でエゾアカヤマアリの観察してき  
ました。このアリを調べていく中で、陣場山の名前  
の由来に触れ、昔の人々の生活を知ることができ  
ました。このアリの存在が陣場山周辺の人と自然  
の関わりを示す歴史の証明なのだと感じ、美しい  
草山だったころの陣場山の姿を想像しました。陣  
場山に行ったら、ぜひ山頂で赤いアリを探してみ  
てくださいね。

〈解説員 ふくざわ〉

参考文献

鈴木樹造（1984）八王子地名考  
八王子市（2014）新八王子市史 自然編  
八王子市（2016）八王子市動植物目録

解説員の



vol.24

キバシリ

スルスルと木の上を走る忍者鳥、  
その名も木走り！



全長：14cm  
（コゲラとほぼ同じ）

木の根元からスルスルと  
回りながら上へ登り、樹  
皮に隠れている昆虫や  
クモを食べる

キツツキの仲間と同じように →  
尾羽で体を支えている

出会うことはあまり多くない鳥ですが、冬場  
はシジュウカラやヤマガラなどの群れに混じっている  
ことがあります。木の幹を滑るようなせわしない  
動き方でふと目につき、思わず目で追ってしまう  
存在です。遠目にコゲラかと見過ごすこともあり  
ますが、この時期は他の季節より見つけやすいの  
で注目です！

〈解説員 やまもと〉

見られる時期…留鳥（あまり多くない）  
見られる場所…混群は1号路、5号路、山頂付近